

10代 の意見

動物を飼う責任
殺処分なくして

◇「動物虐待」。最近この言葉を多く耳にしませんか。

先日、とある番組で、小さなゲージの中に強制的に入れられていたゼーレという名前の犬について知りました。鼻の部分には傷跡があり、以前の飼い主が口の周りを鎖のよう

なもので縛り付けていたために残ってしまったものでし

た。現在は保護団体に保護され、幸せに暮らしていますが、今でも口の周りを触られるのを嫌うといひます。

◇人間の勝手な理由で動物の心や体を傷つけ、命までを奪ってしまうことに正直言葉

を失ってしまいます。昔と比べれば日本の殺処分数は減少傾向ですが、世界と比べてみるとその差は大きく、いまだに苦しんでいる動物たちがいます。中にはゼーレのように虐待を受けていたケースも少なくありません。しかし私は、日本が殺処分数ゼロにできる

と信じます。なぜなら実際に世界には、殺処分数ゼロの国が存在しているからです。シートなど必要としているものがたくさんあり、それらをホームページに表記してくれている団体もあります。だから私は、動物虐待や殺処分数がゼロになる日が一日でも早く訪れるように、協力できることを一つでも多く見つけていきたいです。

◇動物を飼う時には、最後まで命を見届けられる環境をつくる必要があると考えます。契約書を作り、飼い主を

特定できるようにするなど、もっと法律的に生き物を飼う責任の大きさに気付けるよう

にするべきだと思います。また、保護団体には餌やペット

（山梨英和高2年・大谷莉子）